討議資料

みうラボReport Vol.4

三浦市議会議員

いしざき 遊太（ゆうた）

編集・発行　石﨑 遊太 / 令和6年1月発行 / 三浦市南下浦町上宮田1422-4 / 080-4733-4115

新年を迎えての決意

能登半島地方での地震、羽田空港での衝突事故と年明けから痛ましい出来事が相次ぎました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、そのご家族や被災されたすべての方々に、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。一日も早い復興を願うとともに、被災地のために、そして今後三浦で起こりうる震災に備えて何ができるのかを考え抜き、行動してまいります。昨年は妻の出産からはじまり、市議会議員選挙、手探りの状態での議員活動と本当に目まぐるしい1年間でした。初めて娘を抱きしめた時のあの気持ち、当選を果たした時のあの涙を決して忘れることなく、今年も歩んでまいります。皆様の引き続きのご支援、ご指導を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

行政視察のご報告

私が所属する議会運営委員会と都市民生常任委員会では、昨年10月と11月にそれぞれの委員会で行政視察を実施しました。議会運営委員会としては宮城県柴田町と山形県長井市に、都市民生常任委員会としては福岡県大川市と佐賀県武雄市に伺いました。どの自治体も先進的な取り組みをなさっており、大変興味深く学ばせていただきました。貴重な機会を賜り、誠にありがとうございました。下記のQRコードに各委員個人の所感を含めた視察報告書がまとまっておりますので、よろしければご覧ください。

議会運営委員会の視察報告書はコチラ

都市民生常任委員会の視察報告書はコチラ

こんな取り組みを継続しています

“シェアオフィスTIME”を設けています！

三浦海岸のBAYSIDE SHAREにて、週2回ほどの頻度でいつでもお話できる時間を設けています。曜日や時間は毎週変動するため、日曜日にSNSにて告知しております。

選挙後も毎週、駅立ちを行っています！

毎週水曜日、朝7時～8時半ごろまで三浦海岸駅の駐車場付近に立ってご挨拶させていただいています。お気軽にお声がけください。※雨天時や議会日程によっては中止or延期

活動の振り返りを行い、ブログで公開しています！

毎週日曜日には1週間の活動の振り返りを行なっています。また、ご挨拶した方や相談を受けた内容をコンタクトシートにまとめ、毎月はじめに件数などを公開しています。

議場外での普段の活動こそ、
議員としての真価が問われる部分だと考えています！

みうらみらいラボ 会員募集中

みうらみらいラボは、代表であるいしざき遊太との対話を行いながら、会員同士で「三浦の今と未来について考え合う」ための政治団体です。詳細および入会のお申し込みにつきましては、左のQRコードのページをご確認ください。 ご連絡いただければ紙の申込書もお届け可能です。

PROFILE －プロフィール－

いしざき 遊太（ゆうた）

HP、各種SNSなどはこちらからどうぞ！！過去のみうラボReportもHPにアップしています。

1991年4月生まれの32歳。幼馴染の妻とともに、もうすぐ1歳になる娘の子育てに奮闘中。
上宮田小羊保育園→上宮田小学校→南下浦中学校→県立横須賀高校→慶應義塾大学総合政策学部卒。
2022年7月に約7年間勤めた大手食品メーカーを退職し、三浦市へUターン。地域活動に取り組む。
2023年4月の市議会議員選挙にて、1960票の得票を賜り当選。

令和5年第4回定例会 一般質問について

質問の全体像

私が行った令和5年第4回定例会における一般質問の項目は、下記のとおりです。

1 こども政策について
(1)子育て支援への取り組み姿勢
(2)各種施策の現状確認と今後の改善
(3)こどもの遊び場整備
(4)バス通学の状況

2 これからの海業について
(1)うらり経営の総括と今後
(2)市営漁港における取り組み
(3)若年層へのアプローチ

今回初めて、産業振興に関するテーマを取り上げました。福祉は重要な“まちづくり”の施策ですが、それだけで市政運営が完結するわけではありません。今後こうした産業分野にも鋭い視点で切り込んでいきます。

質問や答弁の全文については、私が文字起こししたものをブログに掲載しておりますので下記QRコードからご覧ください。

こちらの資料では実際の発言内容を掲載するのではなく、それぞれの項目について、私の質問の意図や要望の概要を文章で整理したいと思います。

こちらのQRコードより
発言全文をご覧になれます

いしざき遊太　ブログ

こども政策

令和5年10月に、三浦市がこども家庭庁の提唱する『こどもまんなか応援サポーター』への就任を発表しました。内容についてはスペースの都合上割愛しますが、市としてこども政策に一層力を入れていくという意思表示がなされたことは大変意義深いと思います。その意図と思いを冒頭であらためて確認し、各種施策への質問と提言を行いました。

保護者が第２子のために育児休業に入ると、既に保育園等に入所している第１子のこどもが強制的に退所を余儀なくされてしまういわゆる“育休退所”については、令和6年度からは解消する方向であることが確認できて安心しました。

今回特に行政に強く要望したかったのが、以前の一般質問でも取り上げた妊産婦へのタクシー助成（妊産婦に対して１人当たり１冊20枚、計１万円分のタクシー券を給付する）事業についてです。令和4年度の使用率は36.8%とのことで、とにかく低いのです。まずはどのフェーズでタクシー券が使われているのか（使われていないのか）を定量的に分析し、妊産婦が本当に求めている支援が何なのかをゼロベースで考えてほしいところです。欲を言えばこの事業にとどまらず、産科の無い三浦市において妊婦さんたちがどのように通院して出産を迎えているのか、しっかりとしたペルソナ設定を行った上で支援策を検討してほしいと思います。

こどもの遊び場整備の必要性については、行政がニーズを把握していながらもなかなか動けていない状態。事実確認とともにあらためて要望を投げかけました。令和8年に整備が完了する予定の新庁舎においては、こどもが遊べるスペースを確保できるよう検討中である旨の答弁がありました。

令和5年10月から始まった高円坊地区のスクールバス運行については、おおむねうまくいっているとのことでした。気がかりなのは三崎東岡から剱崎経由で三浦海岸に向かう路線バスの状況です。ここは剣崎小と南下浦小の統廃合に際し、こどもたちが安心してバス通学できる環境整備が強く求められている路線。通学時間帯における増便も含めた事業者との交渉が必要になる中で、当該バスのダイヤ変更を事前に把握できておらず、一時混乱するという事態が起こりました。市と事業者とのコミュニケーションが不足していたと言わざるを得ません。この事実はしっかりと指摘した上で、今後の対応強化を求めました。

市長の答弁にもあった『三浦らしいあったかい子育て支援』のさらなるパワーアップを目指し、私もニーズ把握や事例研究、提言に注力してまいります。

発言の中での主な要望

1. 想定する子育て世代像のアップデート
2. 既存施策に対する定量的な分析と検証
3. より利用しやすい子育て支援センター運営
4. こどもが安心して遊べる空間の整備
5. バス事業者とのコミュニケーション強化
6. バス通学に対する経済的支援方法の精査

これからの海業

三浦市は令和5年度を海業(うみぎょう)元年と位置付けています。海業とは何か、きちんと理解することから始めなければなりません。水産庁のＨＰから引用すれば、海業とは『海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業』ということになります。漁業を取り巻く環境が厳しくなる中、昭和60年に当時三浦市長だった久野隆作氏が海業という造語を全国で初めて打ち出したことから、市は三浦を“海業発祥の地”であることを掲げています。その海業を象徴する事業のひとつが、株式会社海業公社の設立と『うらり』の整備・運営開始だったわけです。

そこで、開設から22年が経過したうらりの成果や課題を確認することを皮切りに、質問を展開していきました。『三崎漁港海業振興を目指す用地利活用プロジェクト』においては、うらりの改修を含めた周辺事業用地の活用を行い、三崎漁港としての魅力をさらに高めていくとのこと。どのような事業者選定と開発が行われるのか、今後しっかりと見定めていかなければなりません。

また、市営漁港の活用についても取り上げました。漁業者の減少によって生じた漁港の未利用地を有効活用することは、海業の体現策として重要です。漁港漁場整備法の改正といった後押しを受けてどう具現化していくかは、行政の腕の見せ所だと思います。

最後に、海業における若年層へのアプローチについての質問を行いました。三浦に住んでいる若い世代に海業の魅力やポテンシャルを伝えられない限り、市外の人間を取り込むことは難しいと考えているからです。これからの施策に期待したいところです。

個人的に、漁港等における観光要素の強化のみを海業と捉えるのは軽率だと思います。もちろん観光業の力も重要であることは間違いありませんが、海業の土台となる水産業への支援として何ができるのか、ここを考え抜くことも重要になってくるはずです。行政には海業発祥の地として奢ることなく、謙虚な姿勢で臨むことを求めました。今回は事実確認の意味合いが強くなりましたが、今後もこのテーマは継続して追ってまいります。

発言の中での主な要望

1. 地域に開かれた漁港活用の模索
2. 若年層への海業に対する魅力周知の強化
3. 海業先進自治体への視察実施

2001年7月にオープンし、
開業から22年が経ったうらり。
思えば私の選挙戦も、
この地からスタートしました…